

中世後期ヨーロッパにおける説教と教説 —教皇ヨハネス22世と至福直観論争—

14世紀の前半に、ひとりの教皇が突然耳慣れない教説を説教のなかで展開した。ヨハネス22世は最後の審判まで人は神に会うことはできないと述べたのである。この「異端」的教説を巡る論争は、12世紀以降の説教の展開のなかで理解するとき別の相貌を見せる。本報告では、近年の中世説教研究の成果を踏まえて、ヨハネス22世の至福直観を巡る説教を再検討する。

あか え ゆう いち

講師：赤江 雄一 氏 (慶應義塾大学文学部准教授)

<講師プロフィール>

筑波大学大学院地域研究研究科修了(修士)、慶應義塾大学大学院博士後期課程在籍中に留学。英国リーズ大学で博士号(Ph.D)取得。日本学術振興会特別研究員を経て、2009年に慶應義塾大学文学部文学部助教、2015年から現職。主著に、*A Mendicant Sermon Collection from Composition to Reception*, Brepols, 2015(『托鉢修道会の説教集—執筆から受容まで』)、共著に『知のミクロコスモス—中世・ルネサンスのインテレクチュアル・ヒストリー』(中央公論新社、2014年)など。

● 日時：2019年11月21日(木) 17:10~18:40

● 会場：吉岡記念館3階会議室1(上ヶ原キャンパス)

*一般参加可・申込不要